# 新聞もテレビも報じない
# 子宮頸がんワクチン
# の
# ほんとうの話

福祉と医療・現場と政策をつなぐ
えにしネット
http://www.yuki-enishi.com/

志の縁結び係＆小間使い
おおくまゆきこ

## 自己紹介　もともとは医学記者でした

もとは、生命科学の研究者志望。　わけあって朝日新聞へ。

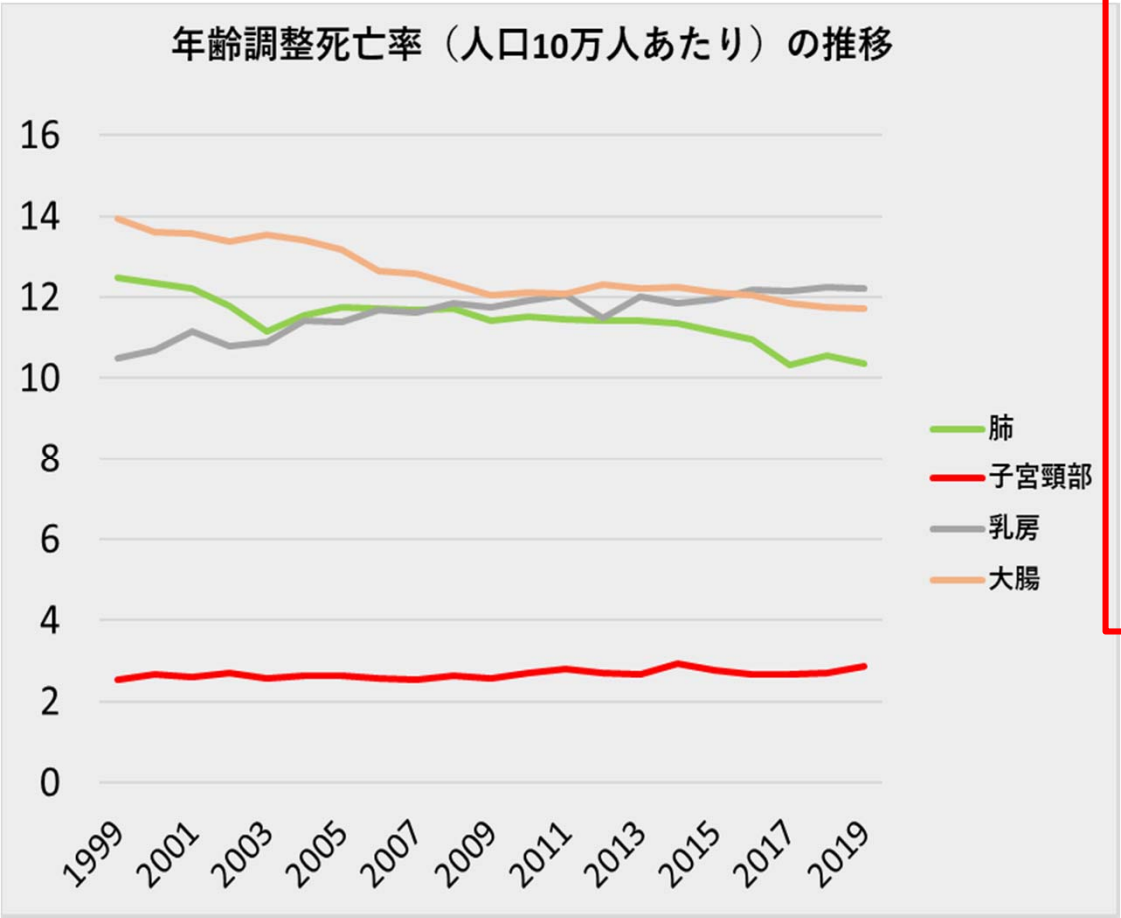
科学部へ。「みんなの健康」を10年
- 「善玉コレステロール」という言葉を発明o(^^o) (o^^o) (o^^)o
- 調査報道「日赤産院名誉院長連続手術ミス事件」
- 当時のメディアの流れにに逆らって「必要なかった和田心臓移植」
- 薬効のいいかげんな理屈「雨乞いの論理」「3たの論理」を追放する記事
- 製薬会社・広告部との攻防

論説委員になって厚生行政も担当
- 「寝たきり老人」という言葉・概念が日本にしかないことを発見w(°o°)w　⇒
- 「痴呆薬を洗い直せ」キャンペーン

福祉と医療・現場と政策をつなぐ志の縁結び係＆小間使いとして
えにしメール4000人／えにしのHP／今年22回目の「えにし」を結ぶ会
- 世界の人口の2%の日本に世界の20%の精神病院
- 世界の常識に逆らう認知症政策／きょうも1万人が精神病院で身体拘束
- 「子宮頸がんワクチン」への理不尽な政策

えにしメールで伝えようとしていること
- マスメディアが報じようとしない大事なことを知らせる
- 政治献金⇒政治力⇒厚生行政⇒この構造を知らせる　たとえば、精神病院・認知症・薬害

# このような基本情報さえ、伝えないメディア




子宮頸癌は検診で前癌病変で
発見できる　珍しいがん
早期発見で赤ちゃんも産める

女性にとっては、乳癌、大腸癌
肺がんの方がずっと怖い

ワクチンが仮に聞くとしても
防げるのはウイルスの半数の型
2年に1回子宮頸がん検診が必要

副反応疑い報告
（100万接種あたり）

| | |
|---|---|
| HPV | 355.8 |
| 4種混合 | 36.6 |
| 風疹 | 28.5 |
| 日本脳炎 | 23.9 |

えにしのHP（「ゆきえにし」でてきます）。その中の
「子宮頸ガン予防？」ワクチンの部屋基礎的情報
http://www.yuki-enishi.com/kusuri/keigan-00.html

# 子宮頸がんとウイルスの関係を、
# たぶん、社説で初めて紹介

★★1984年9月28日の朝日新聞社説で、

「妻やごく親しい女性を子宮頸癌がんにかからせてしまう
物騒な男性がいるという研究結果が最近出た。
浮気な夫の妻ほど子宮頸がんにかかりやすいという。
この男性たちが、イボをつくるウイルスとして知られる
パピローマがウイルスを女性から女性へ運んでいるらしい」

家庭争議がおこらないように苦労して書いた社説

重要なことは、このウイルスは、
空気感染などしないということ

## ★★発端は、ジャーナリストと製薬会社の不適切な関係

### 2010年2 月 26 日

### 医師たちのML[fmj2][00649] でのやりとり・・・・

私:「HPV ワクチンの早期承認と公費負担の実現を図る
「子宮頸ガン征圧をめざす専門家会議」がスタートし、
モナコの学会にジャーナリストたちが招待されました。
利益相反が始まる兆しではないでしょうか？

小児科医:僕個人は、ワクチンしておけば確実に死ななかったのに、してなかったために死んだ子は、何10人と看取っています。
一方、ワクチンで障害を受けたと思われる 子も数人、障害者の専門病院で対応したことがあります。数でいうと死んだ子のほうが、障害を受けた子より多い

私:ご経験になっている感染症と違い、
がんは、早期発見・早期治療で死を免れることができます。
「ワクチンしておけば確実に死ななかったのに、してなかったために死んだ」
という種類の感染症と、この「ワクチン」は、
事情が違います。

毎日新聞の月1回の連続コラム
「私の社会保障論」で検診の大切さを
2013・4・10

連載は『誇り・味方・居場所 私の社会保障論』
というタイトルで、ライフサポート社から、いま3刷



# くらしの明日

## 受けやすい検診の確立を

### 子宮頸がんワクチン被害

私の社会保障論

大熊 由紀子 国際医療福祉大大学院教授

「大切に育てた娘が、注射で将来も奪われて、痛みにもがいて、どんどんひどくなる。顔を歪めて、呻く娘。ゴメンネと私は言い続けている。あなたを将来ガンにさせたくなかった。その代償があまりにもむごい」

東京都杉並区から「中学入学お祝い」として「子宮頸がんワクチン」接種を知らされ、娘に勧めてしまった母が悔恨の気持ちをこめてつづる「みかりんのささやき」というブログの一節です。

この少女だけではありません。元気そのものだったのに、ある日を境に、陸にあげられたサカナのようにけいれんする、痛みが体のあちこちを移動する。病院を訪ね歩いても「精神的なものでは」といわれて傷つく。そんな経験をした家族たちがインターネットで検索して、このブログにたどりつき、あまりに似た経験に驚き、3月25日に「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」を発足させました。

重病で手いっぱいの家族たちを支えようと、首都圏の市議、区議が支援の会をつくり、日野市議の池田利恵さんが事務局長と連絡先を引き受けました。電話番号（042・594・1337）が公開されると「わが子もそうではないか」と、全国から電話が殺到しています。

「子宮頸がんは死を招いたり、子宮を摘出したりすることになる怖い病気だが、ワクチンで防げるという。5万円と高価だが、期日までに受ければ無料といわれ、それならわが子に受けさせよう、と考えてしまったのです」。こう親たちは嘆きます。

厚生労働省に設けられた専門家の検討会でも先月、2種の子宮頸がんワクチンの副反応が、インフルエンザワクチンの38倍と26倍、重篤な副反応は52倍と24倍にのぼると報告されました。にもかかわらず、このワクチンを国の定期接種とする決が3月末、国会で成立しました。

子宮頸がんは、検診で早期発見すれば命も子宮も失わなくてすみます。ただ、日本のように、男性医師の前で足を広げねばならないことの多い検診法では、女性は検診をためらい、検診率は20%にとどまっています。80%と高い英国では、訓練を受けた看護師が、診療所の普通のベッドの上で実施しています。

このような安全で確実な検診方法を検討することなく、まだ臨床試験段階のものを、十分な説明もなく少女たちに接種するのは中止すべきだと考えます。

このワクチンの公的支援が浮上した時、厚労省の担当官は「長期的な効果や副作用の情報が十分ではない」「効果を過信して子宮がん検診を受けなくなったら大変」と警鐘を鳴らしていました。それが、政治主導と社会的なキャンペーンの中で押し切られたのでした。

**副作用と薬害の違い**

どんな薬にも副作用（副反応）はあるが、効果が不利益を上回り、それに勝るほかの方策がなければ、受け入れて治療や予防に使うことになる。薬害は、利益と不利益を比較する科学的データが曲げられたり、副作用情報が隠されたりした結果、被害が拡大すること。副作用は誰が起こすが、薬害は人が起こす。

このコラムを書いたのは

# 子宮頸がん検診は

## 「ワクチン」と違って

**安全で、予防効果が実証されている**

◆がんになる前の「前がん病変」の段階で
　　見つけることができる　→がんを減らす効果がある

◆すべてのHPVウイルス型に有効
　　→ワクチンは16型18型だけ、しかも限定的

◆すでに感染した人も有効
　　→ワクチンはすでに感染した人には無効

◆副反応も副作用も起きない

◆早期発見・早期治療すれば死を避けられる

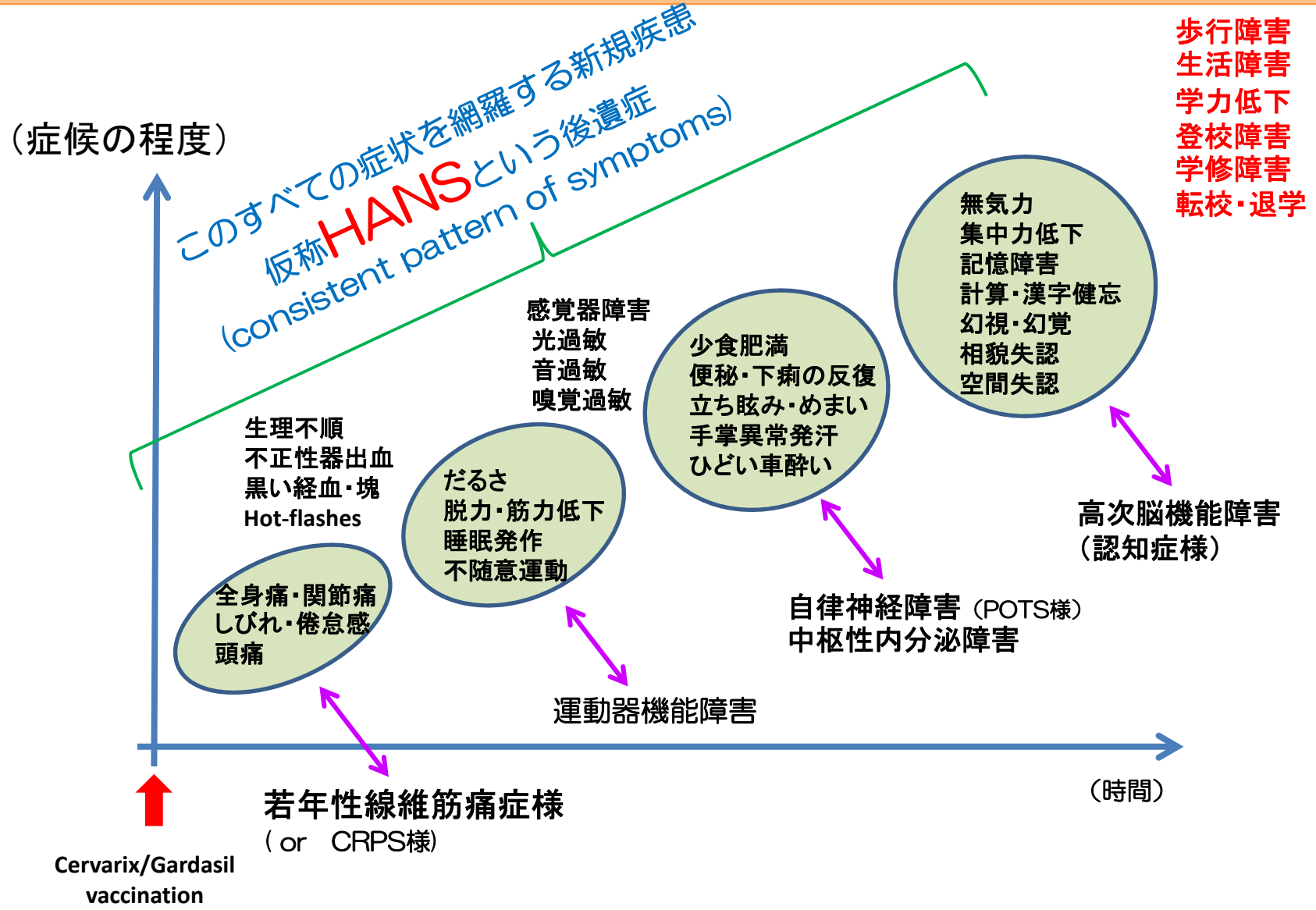
◆◇◆にもかかわらず、
　　産婦人科医も厚生労働省も消極的。なぜ?

# 女性が受けやすいように

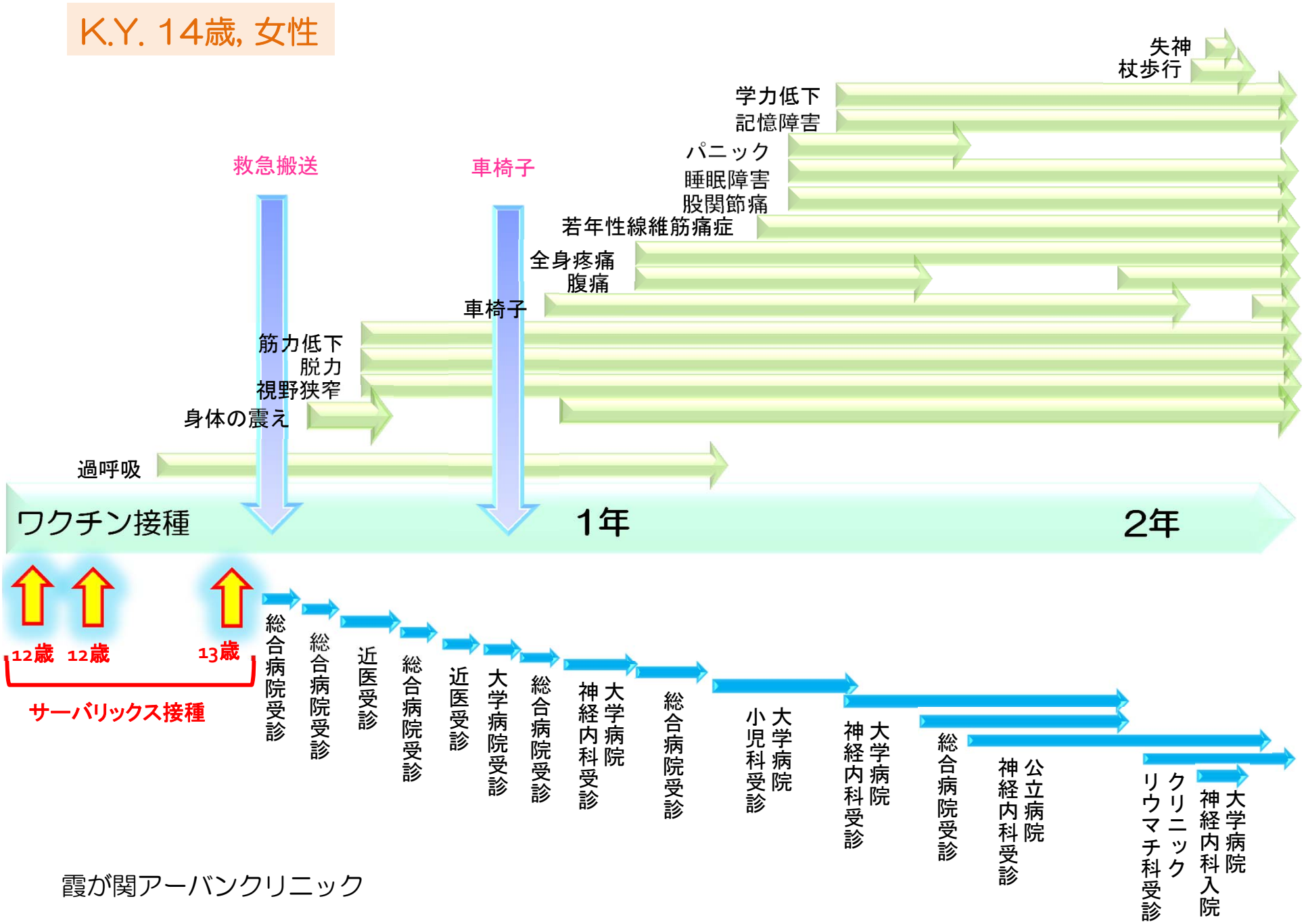
## イギリスでは女性の看護師が普通のベッドで検診

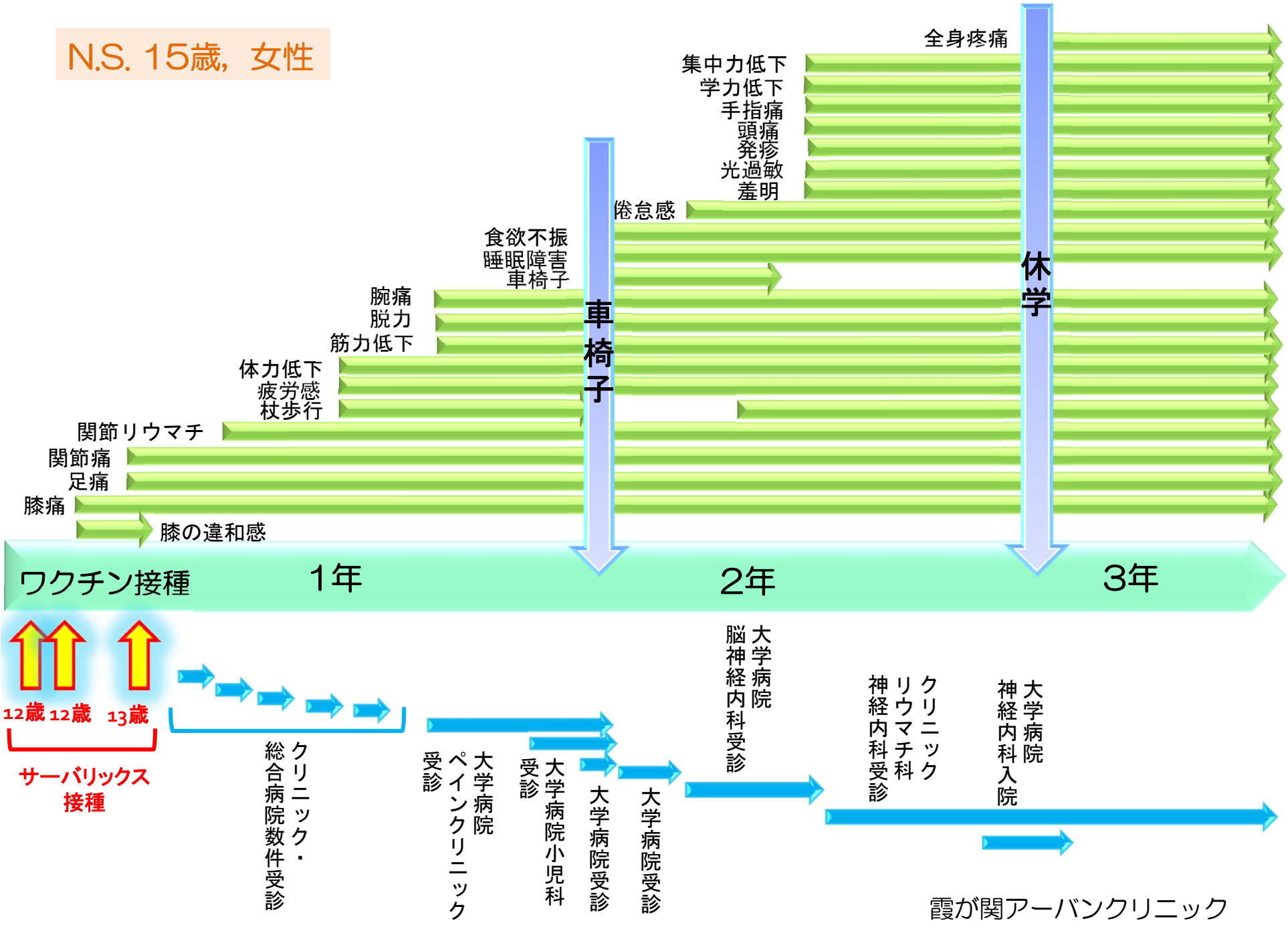
## BBCのスタジオで紹介

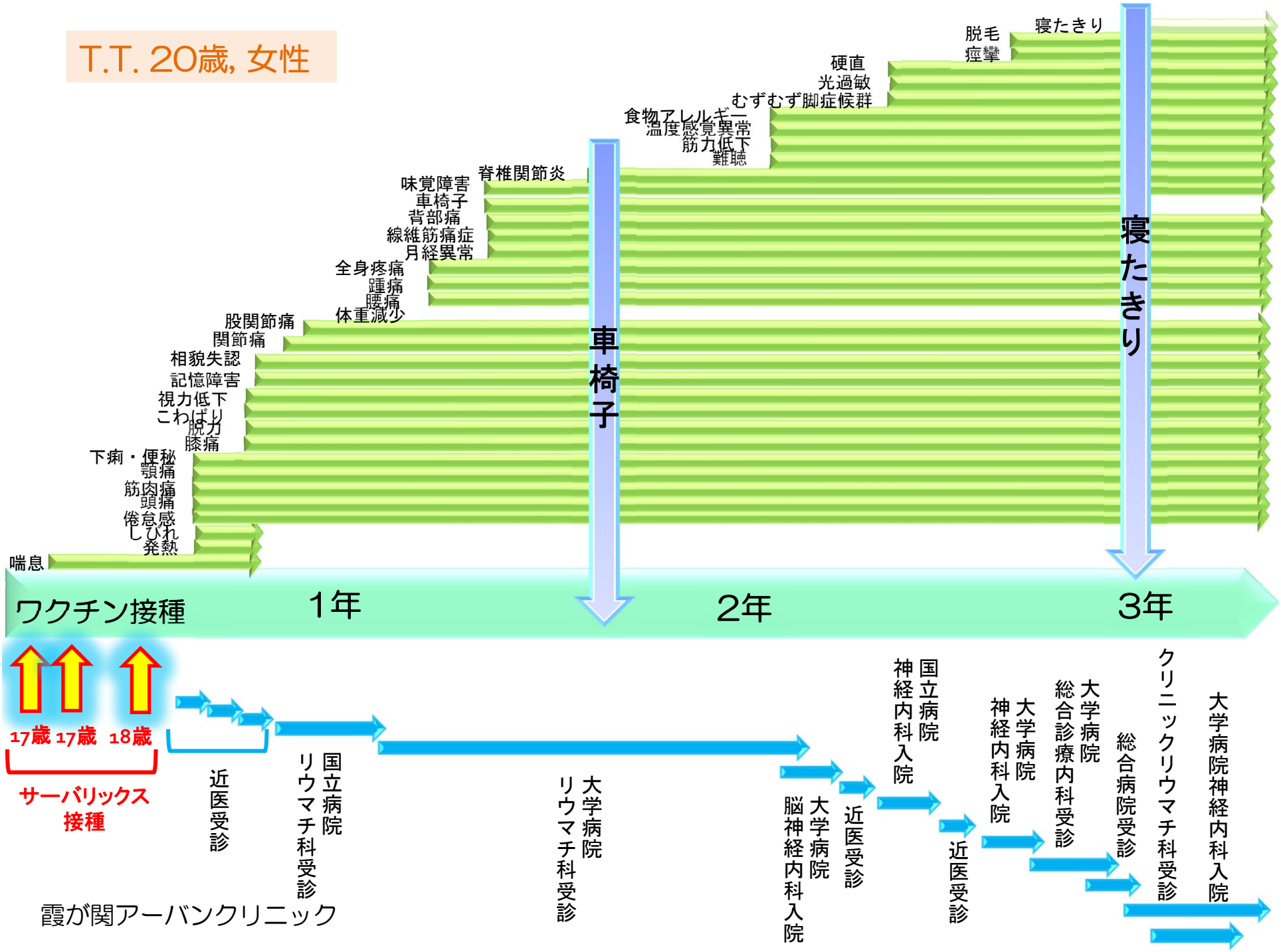
# この後遺症の特徴：時間経過に伴う症候の進展と拡大




*HANS*: Human Papillomavirus Vaccine-associated Neuroimmunopathic Syndrome


K.Y. 14歳, 女性
失神
杖歩行
学力低下
記憶障害
パニック
睡眠障害
股関節痛
若年性線維筋痛症
全身疼痛
腹痛
救急搬送
車椅子
車椅子
筋力低下
脱力
視野狭窄
身体の震え
過呼吸
ワクチン接種
1年
2年
12歳
12歳
13歳
サーバリックス接種
総合病院受診
総合病院受診
近医受診
総合病院受診
近医受診
大学病院受診
総合病院受診
大学病院神経内科受診
総合病院受診
大学病院小児科受診
大学病院神経内科受診
総合病院受診
公立病院神経内科受診
クリニックリウマチ科受診
大学病院神経内科入院
霞が関アーバンクリニック

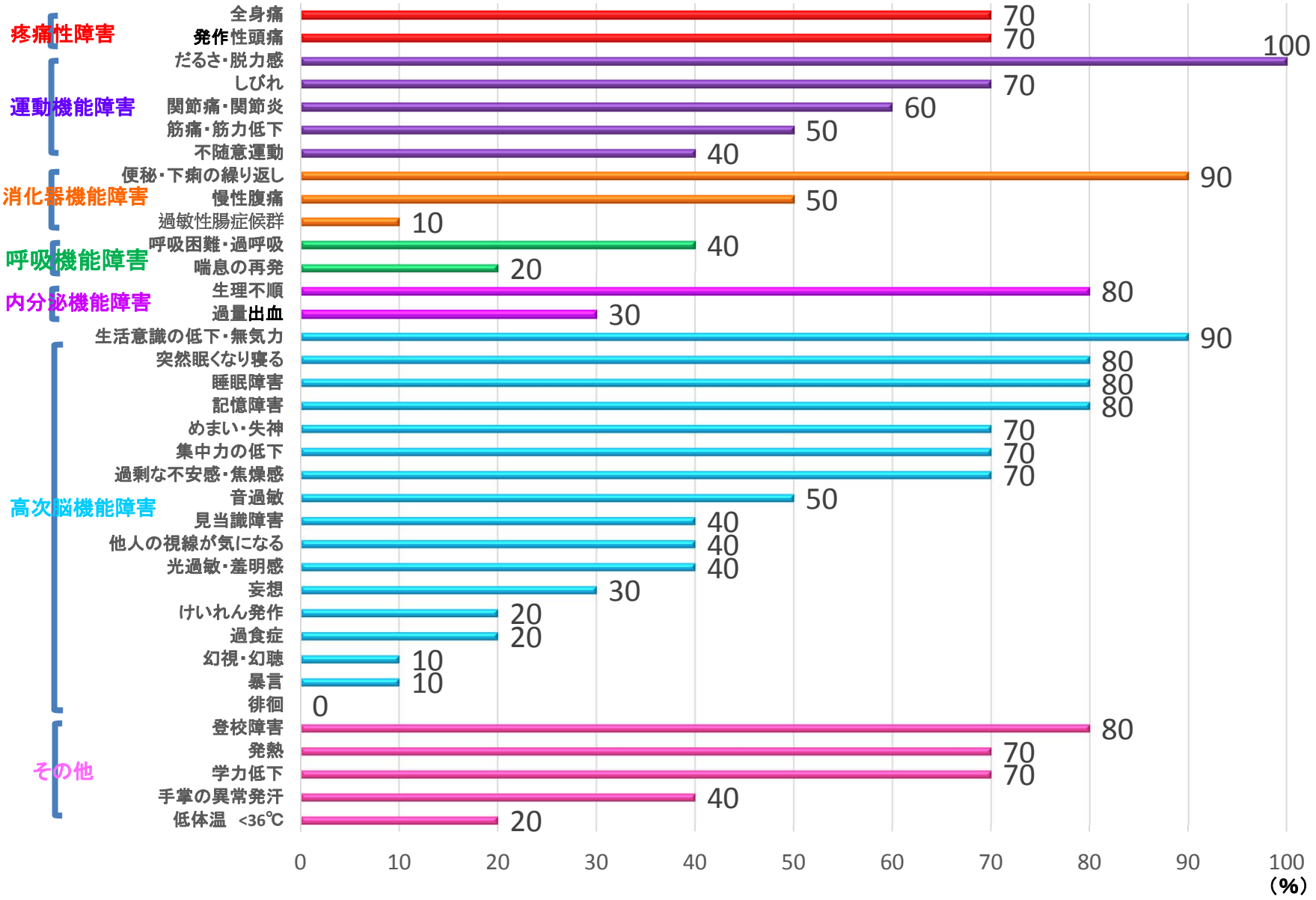

N.S. 15歳，女性
全身疼痛
集中力低下
学力低下
手指痛
頭痛
発疹
光過敏
羞明
倦怠感
食欲不振
睡眠障害
車椅子
腕痛
脱力
筋力低下
体力低下
疲労感
杖歩行
関節リウマチ
関節痛
足痛
膝痛
膝の違和感
車椅子
休学
ワクチン接種
1年
2年
3年
12歳
12歳
13歳
サーバリックス
接種
クリニック・
総合病院数件受診
大学病院
ペインクリニック
受診
大学病院小児科
受診
大学病院受診
大学病院受診
大学病院
脳神経内科受診
クリニック
リウマチ科
神経内科受診
大学病院
神経内科入院
霞が関アーバンクリニック


T.T. 20歳, 女性
喘息
下痢・便秘
顎痛
筋肉痛
頭痛
倦怠感
しびれ
発熱
脱力
膝痛
こわばり
視力低下
記憶障害
相貌失認
関節痛
股関節痛
体重減少
腰痛
踵痛
全身疼痛
月経異常
線維筋痛症
背部痛
車椅子
味覚障害
脊椎関節炎
難聴
筋力低下
温度感覚異常
食物アレルギー
むずむず脚症候群
光過敏
硬直
痙攣
脱毛
寝たきり
車椅子
寝たきり
ワクチン接種
1年
2年
3年
17歳
17歳
18歳
サーバリックス接種
近医受診
国立病院リウマチ科受診
大学病院リウマチ科受診
大学病院脳神経内科入院
近医受診
国立病院神経内科入院
近医受診
大学病院神経内科入院
大学病院総合診療内科受診
総合病院受診
クリニックリウマチ科受診
大学病院神経内科入院
霞が関アーバンクリニック

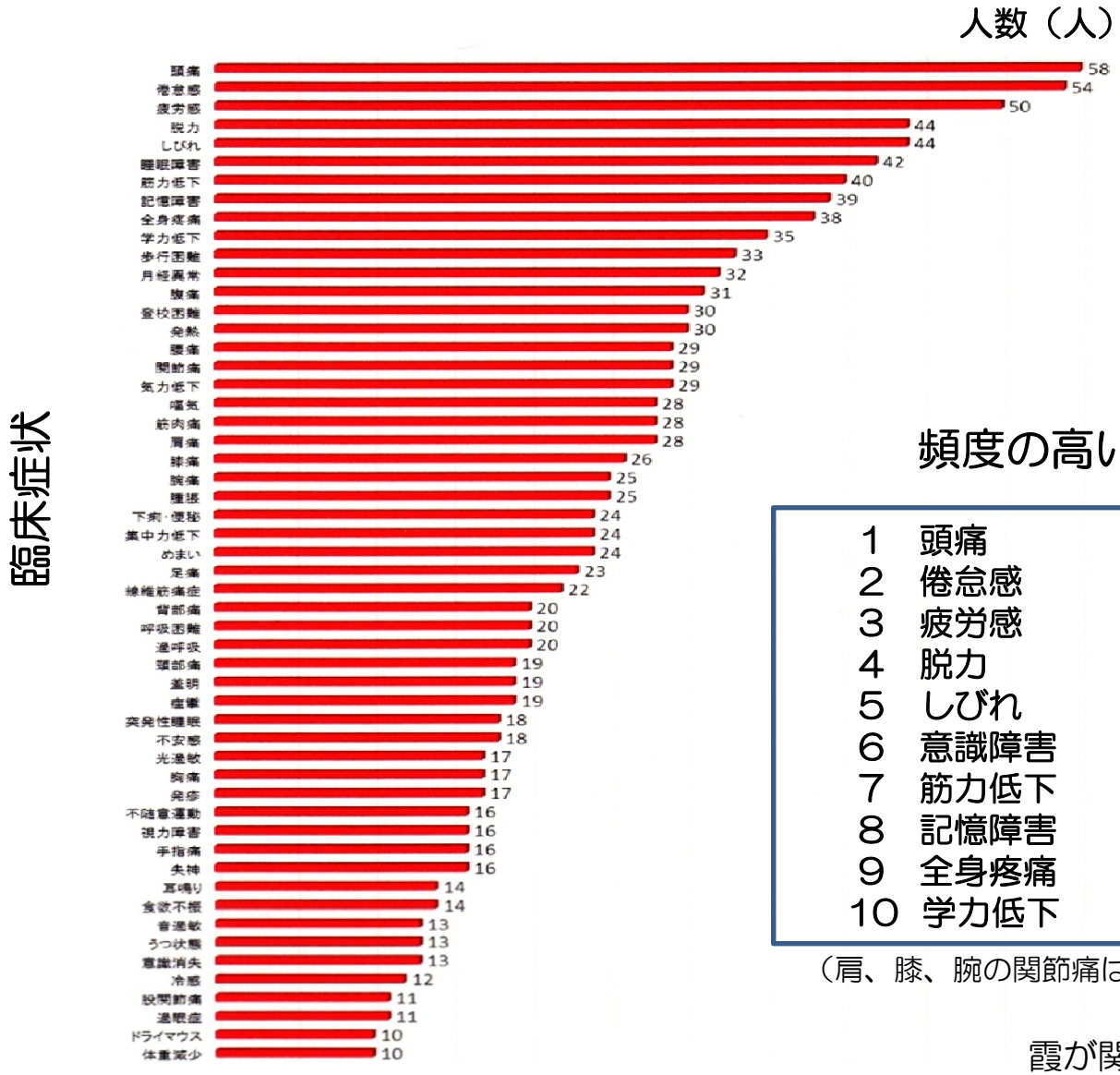
# 後遺症（HANS）：臨床症状の症候的分類と頻度

(n=10)

横浜市立大学小児科



# 後遺症（ HANS） 88症例の呈した臨床症状の種類と人数



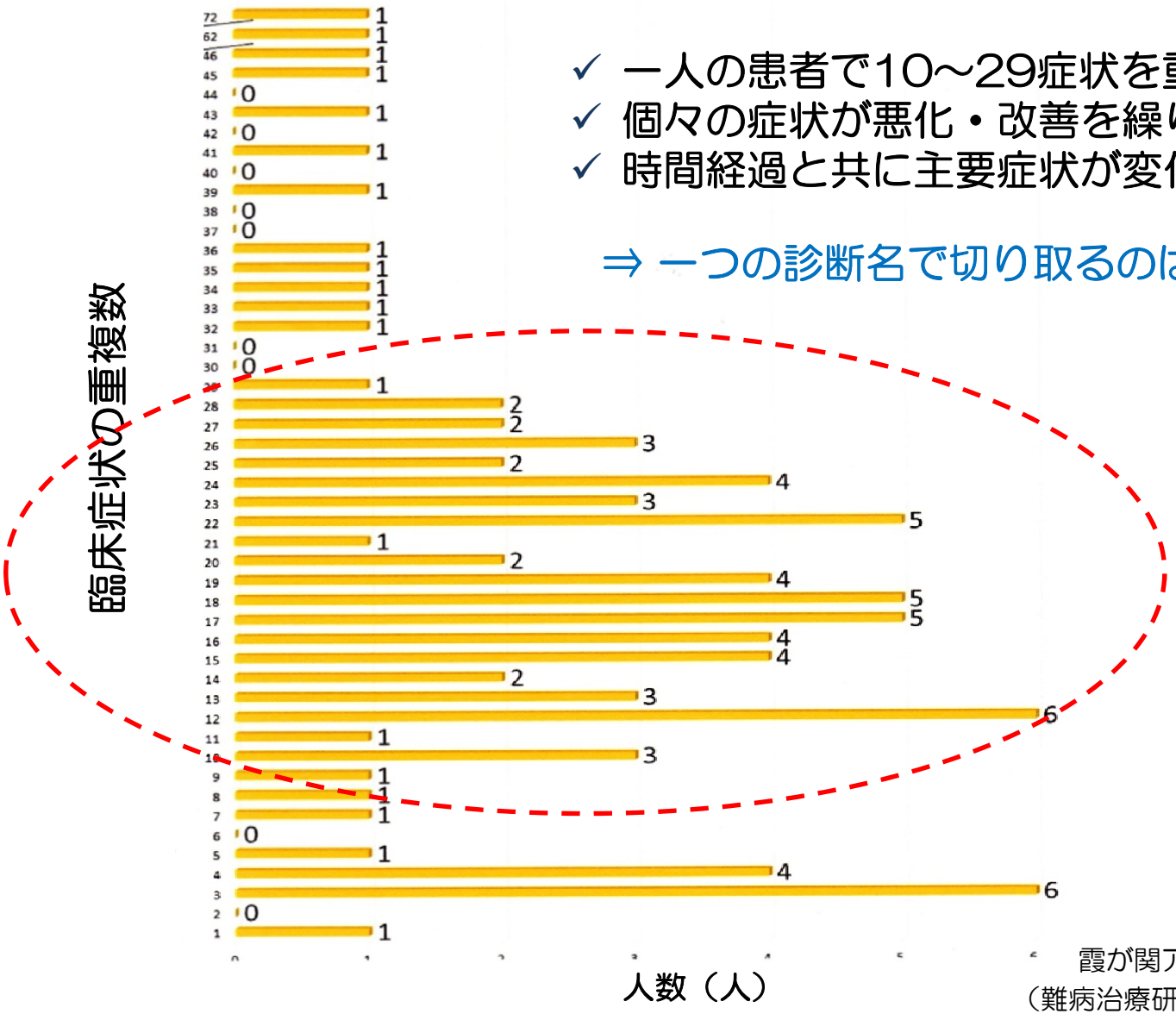

## 頻度の高い20症状

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 頭痛 | 11 | 歩行障害 |
| 2 | 倦怠感 | 12 | 生理異常 |
| 3 | 疲労感 | 13 | 腹痛 |
| 4 | 脱力 | 14 | 関節痛 |
| 5 | しびれ | 15 | 便秘・下痢の反復 |
| 6 | 意識障害 | 16 | 集中力低下 |
| 7 | 筋力低下 | 17 | めまい |
| 8 | 記憶障害 | 18 | 線維筋痛症と診断 |
| 9 | 全身疼痛 | 19 | 過呼吸 |
| 10 | 学力低下 | 20 | 羞明（光過敏） |

（肩、膝、腕の関節痛は「関節痛」として一括した）

霞が関アーバンクリニック
（難病治療研究振興財団のまとめ）

# 後遺症（HANS） 88症例の症状の重複数




- ✓ 一人の患者で10～29症状を重複する。
- ✓ 個々の症状が悪化・改善を繰り返す。
- ✓ 時間経過と共に主要症状が変化する。

⇒ 一つの診断名で切り取るのは不可能！

霞が関アーバンクリニック
（難病治療研究振興財団のまとめ）

ご本人が描いた多彩な後遺症と人生が変わってしまう辛さ

# ★★2014年4月19日
# 福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会

## ことしもまた、新たな縁（えにし）を結ぶ会'14！
## 第3部 大研究・利益相反と癒着の構造
### ～学界・業界・政界・官界・メディア／利権としがらみ～

元ＮＨＫ記者でいまは大学教授の隈本邦彦さんが
〝森のくまさんでる〟教授を名のって歩き回り、
サンデル教授の白熱教室風に (^_-)- ☆

基調報告＆コメンテーター

| | |
|---|---|
| 桑島　巌さん | 循環器内科医／臨床研究適正評価教育機構理事長 |
| 別府　宏圀さん | 神経内科医／TIP 正しい治療と薬の情報代表 |
| 水口真寿美さん | 弁護士／薬害オンブズパースン会議事務局長 |

コーディネーター

| | |
|---|---|
| 隈本　邦彦さん | 江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授／元 NHK 記者 |

特別ゲスト

| | |
|---|---|
| 北野　静雄さん | 製薬研究者／大鵬薬品工業労働組合元中央執行委員長 |

◆会場◆イイノホール

2014.4.19 SAT.

第1章 子宮頸がんワクチンに見る利益相反
　検討委員は誰の味方？／「専門家会議」の利益相反／政治家は、こう動く
　宣伝に貢献したジャーナリズム／WHOあなたまで！／ロビイストはこう暗躍する
第2章 医療界が溺れてしまう構造
第3章 犠牲になる患者たち
第4章 メディアが共犯者になる…地獄への道は、善意の小石で敷きつめられている
第5章 癒着を引きはがす処方箋

3時間半、席を立つひとがいなかった夜の部

このシンポジウムの記録は、えにしのHP （「ゆきえにし」で、出てきます）の「ことしもまた「えにし」の会の部屋　2014」を
http://www.yuki-enishi.com/enishi/enishi-00.html#2014

キノホルムをやめたら……スモンがなくなった

サリドマイド剤の発売をやめたら・・・フォコメリアの赤ちゃんが激減した

ウイルスが生きている非加熱製剤をやめたら・・・薬害エイズは、なくなった

健康局長通知が出たら症状発現が激減…それなのに、なぜ再開？？

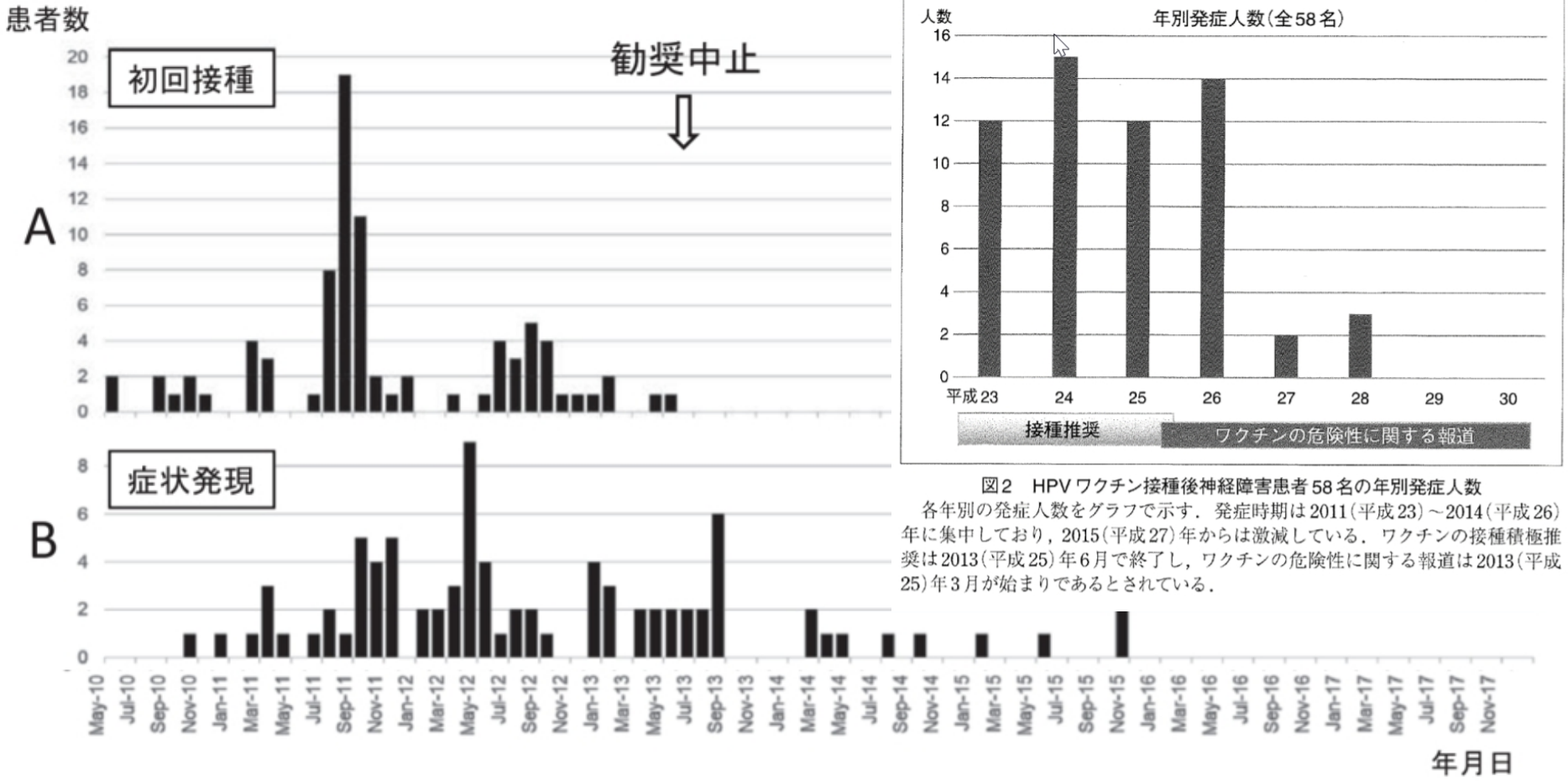






図2　HPVワクチン接種後神経障害患者58名の年別発症人数

各年別の発症人数をグラフで示す．発症時期は2011（平成23）～2014（平成26）年に集中しており，2015（平成27）年からは激減している．ワクチンの接種積極推奨は2013（平成25）年6月で終了し，ワクチンの危険性に関する報道は2013（平成25）年3月が始まりであるとされている．

図 4　子宮頸がんワクチン接種後副反応と診断された 84 名のワクチン接種時，症状発現時，副反応当方受診時の相互関連（文献 18 の figure 3 に 10 名を追加した）

# HPVワクチン
# 副反応を知ろう

副反応は多種多様な症状が重なって出ています。
1日の中でも症状に波があり詐病扱いされることもあります。
副反応を認めない病院が多い為、副反応被害者は数少ない
遠方の病院に通院しています。
学校に行きたくても行けない、働きたくても働けない。
そんな生活がもう10年近く続いています。
定期検診をきちんと受けましょう。
HPV(子宮頸がん)ワクチンの副反応を理解したうえで
接種をご検討ください。

●HPVワクチンのほんとうのことを知って欲しい実行委員会2021

詳しくはこちら→

私たちの被害は終わっていません

知ってください

# HPVワクチン
# 副反応

HPVワクチンのほんとうのことを知ってほしい委員会

# 子宮頸がんワクチン問題～社会・法・科学（みすず書房）

## 第 13 章　「無」から生み出された市場

金銭面だけをみれば、メルク社（日本ではＭＳＤ）とグラクソ・スミスクライン（GSK）社の HPV ワクチンは成功を収めてきた。

2017 年、メルク社は、世界でガーダシルとガーダシル９を 23 億ドル売り上げ、2016 年の 22 億ドルを上回った。

同じ年、GSK 社は、世界で 1 億 3400 万ポンド（約 1 億 8600 万ドル）を売り上げたが、2011 年の最高売上額の 5 億 600 万ポンド（約 7 億 800 万ドル）に比べれば少なかった。

現在までに、この二つの巨大製薬会社は世界中に 2 億 7000 万回接種以上の HPV ワクチンを流通させてきた。

ガーダシルは、メルク社が財務全体を健全に維持するうえできわめて重要である。メルク社の財務報告書（10-K）には、ガーダシルに未知の副反応が発見されたり、市場撤退したりすることになれば、会社全体の収支に悪影響が出ると記載されている。GSK 社も同様に、サーバリックスが主力製品の一つであり、サーバリックスの売り上げは会社全体にとって重要であると記載している。

世界最大級の両社が今やその生き残りを HPV ワクチンに依存しているとは、どういうことなのか。メルク社と GSK 社はいかにして「無」から「市場」を生み出したのか。

（略）

### 「病気のブランド化」子宮頸がんへの恐怖を売り込む

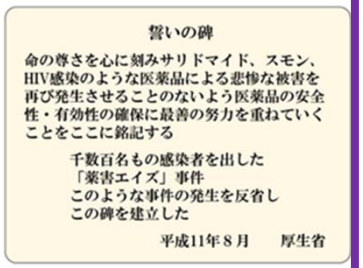
FDA がガーダシルを承認したのは、バイオックスの市場撤退から 2 年も経たない 2006 年 6 月だった。ところが、メルク社の消費者に向けた直接広告（DTC マーケティング）攻勢が始まったのは前年 2005 年 9 月、承認 7 か月前のこ

# 副作用は薬が起こす・薬害は人が起こす

- キノホルムの販売を中止したら……スモンという病氣はなくなりました
  製薬会社は「ウイルス原因説」をもちだして反論。被害者をふやす結果を招きました

- サリドマイドの発売をやめたら・・・フォコメリアの赤ちゃんが激減。
  「妊婦にも安全」と広告。メディアも厚生省も、海外の報告を無視。
- 海外より10カ月遅れたために防げたはずの被害児が約100人　生まれてしまいました

- 生きたウイルスが入っている非加熱製剤。やめたら・・・薬害エイズは発生しなくなりました
- 加熱製剤を当時つくれなかった日本の製薬会社を保護するために、
  厚生省は危険な製剤の中止を2年送らせ、そのために、1000人以上が感染




**・子宮頸がんワクチンの場合**

治療薬と違って、打たれるのは、**健康な少女**たち
1学年60万人　費用1人 5万円　1学年で300億円が
税金から製薬会社に
（打った医師には、1人 1万4000円）

**・薬害を引き起こす四位一体**　製薬会社・専門医・**政治家**・行政

**細田博之・衆院議長**（HPVワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟会長）⇒**総理と厚生労大臣に**
「再開しないと期限切れで廃棄することになり、メーカーに迷惑」
**公明党**　副代表・**松あきら議員**が強力に推進
（議員の夫は、サーバリックスを発売する英国のグラクソ・スミスクラインの顧問弁護士）
**（その後、公明党幹部のお孫さんが、子宮頸がんワクチン後遺症に。涙ぐむ幹部）**

ゆきえにしネットhttp://www.yuki-enishi.com/
　をクリックするとこのような情報が

○「ＨＰＶワクチン関連神経免疫異常症候群（ＨＡＮＳ）とautoimmune/inflammatory syndrome induced adjuvants(ＡＳＩＡ)」・アレルギー・ 免疫25巻6号・横田俊平et al　2015.6

横浜市立大学発生成育小児医療学名誉教授・横田俊平先生と公開講義聴講生の往復メール　2015.6

○取り残された被害少女たち　朝日新聞社会部　斎藤智子さん（週刊朝日　2015.5）

○「子宮頸がんワクチン」被害、デンマークの少女にも
「子宮頸がんワクチン」と称するものが、癌の予防につながらないばかりか、場合によっては、認知症のような症状まで起こすことを警告してきました
そんな被害は出ていない」というのが推進を唱える方々の主張でした。それを覆すＴＢＳのnews２３で放映された映像です。国立フレデリクスベア病
実態究明を始めています。

○ワクチン世界市場の“草刈り場”となった日本／推進するWHOの影にゲイツ財団と製薬企業……太田美智子さん
こちら】

○「子宮頸がんワクチンは脳神経を壊す」－自己免疫疾患者が実名告発　2014.7.10 週刊文春……ジャーナリス

◇とんとん拍子の公費助成・定期接種化の背景／子宮頸がん予防ワクチンの“主役”はロビイストとＰＲ開会社か
金曜日2013.10.4）

勧告「市町村長は、接種の積極的な勧奨とならないよう留意すること」厚生労働省健康局長　2013.6.14

◇「被害を生み出すワクチンビジネス」江戸川大学教授　隈本邦彦さん

◇ＨＰＶワクチンの効果と害……「医薬品・治療研究会・正しい治療と薬の情報」
日本では、製薬会社から広告費や協賛金をもらっていない医薬品関係の雑誌は、ほんのわずかしかありません。
編集長の別府宏圀医師はスモン以来、薬害問題の解決、医薬品の適正使用、エビデンスに基づいた正しい治療の普及に熱心に取り組んできた神経内科医

◇子宮頸がん予防接種／効果薄い／副作用調査すれば数倍　東京新聞2013.5.12

◇子宮頸がんワクチン被害／受けやすい検診の確立を　毎日新聞2013.4.10

○子宮頸がん予防ワクチンキャンペーンの「危うさ」　週刊朝日2010.4.16号
fmj2ＭＬの私の投稿に共感してくださった金沢大産婦人科講師（当時）の打出喜義さんが、ＨＰＶ研究や予防ワクチン開発に取り組んできた金沢医大
んの協力をえて警鐘をならしてくださいました。

○「専門家会議」とモナコの国際学会招待への懸念　2010.2.6　fmj2ＭＬにゆき投稿